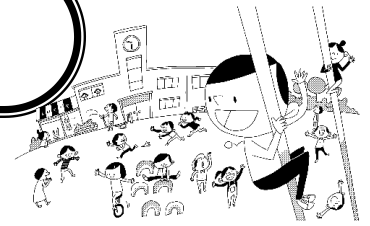


# どうとくのひろば



## 6年生の道徳の授業

主題名：探究する意欲

ねらい：【真理の探究】

教材名：「光をともした『魔法の薬』」

あらすじ：微生物の研究に取り組み、ノーベル医学生理学賞を受賞した大村さんは、人間の健康に役立つ抗生物質を開発するために、失敗してもなおチャレンジを続けた。

### 授業での具体的な様子

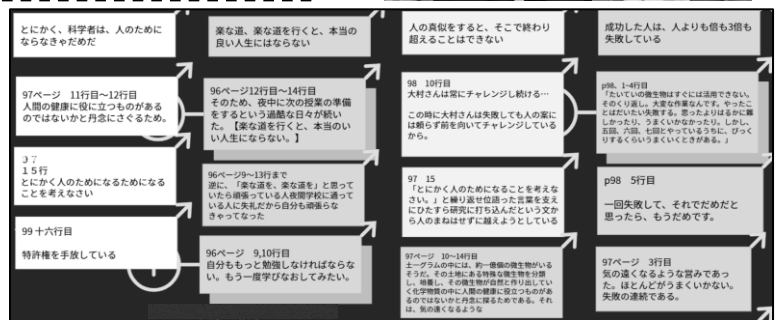
教材文を一読した子供たちは、2015年にノーベル医学生理学賞を受賞した大村さんのすごさに感心していました。大村さんがどのようにしてノーベル賞を受賞するに至ったかを知り、大切にしている以下の四つの言葉を学びました。

- とにかく科学者は人のためにならなきゃだめだ。
- 楽な道、楽な道を行くと本当のいい人生にはならない。
- 人のまねをするとそこで終わり。こえることはできない。
- 成功した人は、人よりも倍も三倍も失敗している。



これらの四つの言葉の中から、自分が一番心を動かされたものを選び、黒板上に名前磁石で表示しました。

その後、それぞれの言葉につながる大村さんの行動を読み取り、学習支援アプリを使ってまとめていきました。四つの考え方が表れている具体的な行動を話し合い、諦めずに探究を続けることの素晴らしさを理解していきました。



最後に、これからの自分の生き方について考えてノートに書きました。以下に紹介します。

- ぼくは人のためになるようなことは学校以外ではあまりできていないと思うから大村さんのように誰に対しても役に立つことをどこでもできるようになりたいです。
- 今後改善していきたいことは、人のまねをすることをやめることで、生活を見直したいことは楽な道をあまり行かないようにしたい。大村さんの生き方で参考にしたいことは、「成功した人は人よりも失敗している」という言葉で、失敗してもそれは成功につながると思った。
- これからは、失敗してももう一回と、何回も挑戦したいと思いました。人のためになりたい。
- 人のまねをすることで新しい何かを見付けられるから、やり過ぎない程度でまねをして、本当のいい人生は自分次第だから楽な道は進んでもいいけどやり過ぎない程度にする。
- 私は、身の回りの仕事をお母さんにやってもらったり、後回しにしたりしていたけど、大村さんの言うことに感動して、だらだらをやめようと思いました。

切り取り

道徳だよりへのご質問・ご感想

( ) 年 ( ) 組 児童名 ( )

